

真岡市普通会計 バランスシート (貸借対照表)

平成 26 年 3 月 31 日現在

借方 (資金をどのように使っているか)		貸方 (資金をどのように集めたか)	
【資産の部】		【負債の部】	
1. 公共資産 <small>道路、公園、市営住宅、小・中学校、市役所庁舎、保育所などの市の資産を部門別に分類し、減価償却して累計したものの。</small>		1. 固定負債 <small>市の長期借入金である地方債の残高、普通会計職員の退職金相当額(想定)などを計上したものの。</small>	
(1) 有形固定資産	934 億 1,898 万円	(1) 地方債	219 億 1,462 万円
①生活インフラ・国土保全	452 億 7,884 万円	(2) 長期未払金	2 億 832 万円
②教育	298 億 6,013 万円	①物件の購入等	0 円
③福祉	11 億 6,234 万円	②債務保証または損失補償	0 円
④環境衛生	23 億 6,068 万円	③その他	2 億 832 万円
⑤産業振興	39 億 4,385 万円	(3) 退職手当引当金	40 億 4,751 万円
⑥消防	11 億 804 万円	(4) 損失補償等引当金	0 円
⑦総務	97 億 510 万円	固定負債合計	261 億 7,045 万円
(2) 売却可能資産	7,708 万円	2. 流動負債 <small>翌年度に支払う長期借入金の返済額と、前年度の収入不足により繰り上げて使った分を計上したものの。</small>	
公共資産合計	934 億 9,606 万円	(1) 翌年度償還予定地方債	22 億 1,438 万円
2. 投資等 <small>出資金や市民への直接貸付金、福祉や学校建設基金などの特定目的のために積み立てられた基金額を計上したものの。</small>		(2) 短期借入金 (翌年度繰上充用金)	0 円
(1) 投資及び出資金	38 億 2,431 万円	(3) 未払金	1,953 万円
①投資及び出資金	38 億 2,431 万円	(4) 翌年度支払予定退職手当	0 円
②投資損失引当金	0 円	(5) 賞与引当金	1 億 9,579 万円
(2) 貸付金	3 億 9,043 万円	流動負債合計	24 億 2,970 万円
(3) 基金等	60 億 8,882 万円	負債合計	286 億 15 万円
①退職手当目的基金	0 円	【純資産の部】 <small>土地の購入や道路、建物などを建設するために充てられた国・県支出金、税などを計上したものの。</small>	
②その他特定目的基金	56 億 1,329 万円	1. 公共資産等整備 国県補助金等	132 億 483 万円
③土地開発基金	3 億円	2. 公共資産等整備一般財源等	799 億 9,929 万円
④その他定額運用基金	6,082 万円	3. その他一般財源等	△116 億 4,416 万円
⑤退職手当組合積立金	1 億 1,471 万円	4. 資産評価差額	6,050 万円
(4) 長期延滞債権	10 億 542 万円	純資産合計	816 億 2,046 万円
(5) 回収不能見込額	△3 億 8,885 万円	3. 流動資産 <small>短期間(1年以内)に換金できる預金や現金、税金の未収金などを計上したものの。</small>	
投資等合計	109 億 2,014 万円	(1) 現金・預金	56 億 2,748 万円
3. 流動資産		①財政調整基金	28 億 6,143 万円
(1) 現金・預金	56 億 2,748 万円	②減債基金	5 億 282 万円
①財政調整基金	28 億 6,143 万円	③歳計現金	22 億 6,323 万円
②減債基金	5 億 282 万円	(2) 未収金	1 億 7,693 万円
③歳計現金	22 億 6,323 万円	①地方税	2 億 8,469 万円
(2) 未収金	1 億 7,693 万円	②その他	586 万円
①地方税	2 億 8,469 万円	③回収不能見込額	△1 億 1,363 万円
②その他	586 万円	流動資産合計	58 億 441 万円
③回収不能見込額	△1 億 1,363 万円	資産合計	1,102 億 2,061 万円
流動資産合計	58 億 441 万円	負債・純資産合計	1,102 億 2,061 万円

バランスシートとは？
市民が安心して快適に生活するための学校や福祉施設、公園、道路、橋あるいは消防車などの資産と、それを取戻すために必要としたお金や負債を対比したものです。

用語の説明

■資産とは？

市民の財産として、さまざまな行政サービスを提供するために、市税や長期借入金などを投入して形成したものです。なお、有形固定資産は基本的には処分できないものです。

■資産のほとんどは土地や建物

資産の内訳は、公共資産(土地・建物)が約935億円で、資産全体の84.8%を占めており、残りが出資金、貸付金、基金(積立金)、現金・預金などの投資等および流動資産で、約167億円となっています。

■負債とは？

資産をつくるための財源である長期借入金(地方債)など、市民の負担として将来にわたって返済しなければならないものです。

■負債のほとんどは地方債

負債の内訳は、地方債(翌年度償還予定額を含む)が約241億円で、負債全体の84.4%を占めており、残りが退職給与引当金等で、約45億円となっています。

■純資産とは？

行政サービスを提供するために保有している財産に対応する財源のうち、現在までの世代が負担した税金と土地や建物を取得した際の国・県支出金であり、資産から負債を引いた残額です。

財政健全化比率等の状況

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)」により平成25年度決算に基づき算定した各比率は、下記のとおり全て基準を下回り健全な状況にあります。

■健全化判断比率

(単位：%)

比率名	比率	早期健全化基準	財政再生基準	(参考) 黒字の場合の比率
①実質赤字比率	—	12.60	20.00	9.98
②連結実質赤字比率	—	17.60	30.00	45.39
③実質公債費比率	7.1	25.00	35.00	
④将来負担比率	10.1	350.00		

①実質赤字比率…一般会計等を対象とした実質赤字の標準財政規模に対する比率(黒字のため「—」表示としています)

②連結実質赤字比率…全会計を対象とした実質赤字または資金の不足額の標準財政規模に対する比率(黒字のため「—」表示としています)

③実質公債費比率…一般会計等が負担する元利償還金および準元利償還金の標準財政規模に対する比率

④将来負担比率…一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模に対する比率

※財政の早期健全化…上記比率のいずれかが早期健全化基準以上の場合には、早期健全化計画を策定し、自主的な改善努力による財政の健全化に取り組まなければなりません。

※財政の再生…上記比率のいずれかが財政再生基準以上の場合には、財政再生計画を策定し、国等の関与による確実な再生に取り組まなければなりません。

■資金不足比率

(単位：%)

会計名	比率	説明	経営健全化基準	(参考) 黒字の場合の比率
インターチェンジ周辺開発事業	—	公営企業ごとの資金不足額の事業の規模に対する比率	20.0	88.33
公共下水道事業	—	(各会計とも赤字または資金不足を生じていないため「—」表示としています)	20.0	21.66
農業集落排水事業	—		20.0	32.80
簡易水道事業	—		20.0	101.53
水道事業	—		20.0	173.97

※経営の健全化…比率が20%以上となった場合には、経営健全化計画を策定し、自主的な改善努力による経営の健全化に取り組まなければなりません。

【問い合わせ】企画課 財政係 ☎83・8104 FAX 83・5896